

件名	H29 第 1 回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会記録		
日時	2017 年 4 月 26 日(水)18:30~20:00		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館		
出席者	(委員 8 名) 遠藤公章、渡邊由佳、田嶋昭彦、朝日田卓朗、鷺野星夫、石本義之、 (敬称略) 石沼友、岩本馨 (オブザーバー) ・区長 9 名 小浜区長 賀須井長美、筒地区長 小木幹晴、石脇区長 櫻井覚、泊 2 区 長 岩本和雄、泊 3 区長 松田宗春、泊 4 区長 上野義博、泊 5 区長 中尾 輝夫、園 区長 木下善議、宇谷区長 戸羽君男 ・県元気づくり総本部元気づくり推進局とっとり暮らし支援課 澤米課長補佐、山本課 長補佐 ・県中部総合事務所地域振興局 栃本リーダー、久保田係長 ・地域おこし協力隊 辺 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計 25 名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	泊地域小さな拠点検討協議会レジュメ、雲南市波多地区視察資料、検討項目(小さな拠点施設について)		

■開会

(会長)協議会の目的は①人口減少に向けた対策をどうすればいいか、②高齢者の方がどうすれば泊地域で生活していけるのか、について検討していくことだ。区長さん方も多くご出席いただいたので、自由にご意見いただきたい。

■視察振り返り(資料 1)

(会長)先日、島根県雲南市波多地区で地域が運営するマーケットを視察した。

※資料説明、資料参照

(委員)商品も多く、価格もコンビニほど高くなくお手頃で良かったが、波多地区は他の地域に行くのも大変な場所だったので、マーケットの存在はとても重要なんだと感じた。参考にしたと思った反面、泊にも応用できるのか、と疑問な部分もある。

(会長)確かに、波多地区は市街地まで遠いので、必要なものになっている。無料送迎も行ってた。

(委員)波多地区は奥まったところにあるが、地域の方がボランティアでやっていて、そこに住んでいる人は不便ではないと思うが、泊の土地は恵まれているので、成り立つのか、と感じた。マーケットだけでなく、他の要素も一カ所に集まっているのは便利だな、と感じた。

(会長)マーケットだけでは収益は成り立っていない。補助金などの市からの支援や公民館の指定管理なども受けて、なんとか収益が成り立っているようだ。

(事務局)波多地域は 300 名程度の住民数なので、必ずしも泊とイコールではないと言える。店舗を開設する際に、地域の方から寄付金を募ったことで、「自分たちの店」だという意識付けになっていることがポイントだと感じた。

(会長)地元の人にどれだけ買ってもらうか、という点が重要だと考えている。波多地区では地

元の方から寄附金を募って、「自分が寄附したんなら、利用しようかな」という意識付けをしていた。

(区長)無料送迎はどなたが担当されていたのか。

(会長)交流センターの方が軽自動車で送迎されていた。協議会の中の仕事としてされている。交流センターの職員は 5 名いる。

(事務局)協議会で補助金を利用して軽自動車を購入し、無償で 5 件/日程度電話で受け付けて協議会スタッフが送迎を行っている。

(会長)住民の皆さんは乗り合わせで送迎車を利用されているようだ。

(区長)商品管理はどうしているのか。

(会長)全日食チェーンと契約し、商品の供給、在庫管理、広報の実施を行っている。また、地域の農家がつくった野菜も販売できるようになっている。

(事務局)レジの横に安売りコーナーを設けて、生鮮や賞味期限が近付いたものが売られている。商品の売れ筋などは本部にデータ収集されていくので、商品の管理やアドバイスはなされているようだ。

(会長)月に 200 万円ほどの売り上げがあればなんとか経営が成り立つとのことだが、波多マーケットはそこまでに至っていない。

(委員)買い取りなので生鮮食品は少なくし、売れ筋商品や飽きが来ないように新しい商品を入れるようにしていると話していた。

(区長)近隣に移動販売が来るが、高齢者は惣菜を期待しているので、買うものがないとの意見がある。その辺のところ難しい。

(区長)財政的な裏付け資料はなかったか。総事業費 5000 万円は市からの交付金があるのか。

(会長)45~46%は市からの交付金が出ているとのこと。また、温泉施設等の指定管理を受けているので、その収益もある。

(会長)協議会の人件費としては、750 万円くらい。お店の収益は年 10~15 万円で独立採算はできない。

(事務局)湯梨浜町で言うと、集落づくり総合交付金タイプの補助金、指定管理による収益、公民館機能もあるので、人件費は交流センター等の職員が担うことで成り立っている。

(区長)泊には 2 店舗しか店がない。コンビニがほしいといったとき、協議会をつくって補助金が出なければ難しいという話が出たし、住民票を交付できるなどの機能を持たせることができればいいと思った。

(会長)最近でも 2 回ほどコンビニの出店計画があったが、やはり採算性が合わないということで出店に至らなかった。運営の方法も検討する必要がある。

■ 「小さな拠点推進事業」、「小さな拠点施設整備事業」の今後の取り組みについて(資料 2)

(会長)この協議会は、「人口を増やすにはどうすればよいか」、「お年寄りがこれからも住み続けるにはどうすればよいか」をテーマに話し合い、買い物・店舗と住む場所が必要と考えた。具体的な店舗や分譲地の場所などを示し、それらの運営方法も提案する。

(事務局)あくまで小さな拠点というのは、自治体や色々な団体と協力しながら、地元の人を中心になって、生活圏の範囲内で暮らしやすい環境を作っていく、拠点の集約や整備について検討していただきたいと考えている。公民館、青少年の家、漁村センター、役場泊支所などの活用、集約についても併せて検討していただきたい。

(会長)我々は経営にも詳しくないし、分からないことも多いと思うが、必要だと思う要素などを検討していきたい。どこに店舗を置きたいという考え方から始めていいのか。

(事務局)役場としても既存施設をどうしていくか検討を続けているし、地元の方の考えが重要である。限られた財源もあるので意見を取り入れていきたいと思う。公民館、役場泊庁舎、青少年の家が古く、漁村センターがまだ一番新しい。

(委員)今まで色々な意見が沢山あり、リクエストが出てきた。波多マーケットのような運営についても場所が決まらなければ収支計画など立てられず、話が進まない。施設についてもどれを残していくことが望ましいのか、我々の考えをまとめるのは難しい。

ある程度、建て替え時期など分かれば意見しやすいが、どの程度検討が進んでいるのか。

(事務局)役場の方ではまだいつまでにどうする、という話は進んでいない。

(会長)今ある施設を活用するというで検討しなくてはいけないのか、それともそんなことは気にせず意見をだしていいのかが分からない。

(委員)波多地区は出来て間もない廃校になった小学校校舎を活用する、ということだったので拠点整備しやすかったと思うが、泊の場合、耐用年数が過ぎているので新しく建て替えるなど財源がつくのかも分からないので、つわぶき荘、はまなすなどを活用する方法を考えた方がいいのか、分からない。

(事務局)個人的には耐用年数がないものを少しキレイにしてもよくないと考えている。ご意見を聞きながら、補助金を申請したりして財源を確保しながら進めていこうと考えている。

(会長)古いものを使わずに新しいものを作ったほうが使いやすいと思う。今ある建物を代用していくのであれば機能を無理に押し込める感じになってしまう。検討がどこへ向かっていったらいいか整理できていない。

(事務局)泊地域は敷地の問題もあるし、小さな拠点の国の補助金はあくまで既存する施設を集約することに補助金を充てる。また泊地域は、過疎地域なので過疎債が使いやすい利点はある。

(会長)集約ということは、公民館機能、店舗の機能を集約する、といったようなことか。

(事務局)例えばだが、そういうことになる。

(区長)店だけでなく、泊地域にはガソリンスタンドもない。最近は電気自動車などもあるが、そんなものも組み合わせてもいいのではないかと思う。若い人なら地域外で給油できるが高齢者や農家は近くにあればいいと思う。もっと高齢になれば移動手段も検討していただきたい。最近地区内に 1 軒増えたが、車がないようなので、移動手段も必要だと感じる。

(区長)店舗を作るということで、それに付随するコミュニティ機能が出来るのか。出来るまでの間、無料送迎バスなども考えていく予定なのか。行政でもバスを走らせていると思うが、そのダイヤなどの周知も知りたい。

(会長)社協が羽合方面に走らせている。

(区長)どういう周知の仕方をしているのか。

(区長)民生児童委員が周知をするようにしていると思われる。

(委員)集落に出向いている。まだ、口コミでしか周知されていない。

(区長)もっと周知をしていくことも一つの手段だと思う。

(区長)最初の買い物の場の話は施設の話だろうが、泊地域として何をするのか、を固めないと話が進まないと思う。

(会長)その方向性も含めて検討していかなくてはいけない。

(区長)店をもつだけでなく、防災面や生活のことなども考えていかなくてはいけない。店舗を設けるとして町から補助が出るとしても、一番難しいのは色々な商品がほしい、揃えなくてはならないということになる。どうしても羽合の方に買い物に出てしまい、採算がとれなくなる。それを考えると、羽合の店舗を活用して、移動手段をどうするのかを考える必要がある。地域福祉計画、社協の地域福祉活動計画があり、やはり問題はどうやって買い物に行けるよう

にするのか、病院や医院に行けるのか。泊地域に店や病院ができれば一番良いが、泊の経済状況からすれば難しいと思うので、仕組みづくりが必要になる。公的なことに頼らず、泊地域の人たちが助け合いながら運営していくシステムを検討していくこと。社協だけでなく、住民が共助、助け合うことを考えることも必要だ。

(会長)協議会のなかでも、若い世代から意識を変えていかななくてはいけない、という話が挙がっている。商品を買う場所についてもそうだし、高齢者とどうかかわっていくのかについても。防災のことなども含めて考えていくと、内容がぼやけてしまう。ある程度具体的な部分が決まらなないと話が進まないと思う。どこに区切りをつけるかが難しいところ。

(委員)共助とか地域に対しての問題意識をもって、他人事ではなく自分のこととして解決していければよいと思う。

(会長)羽合に機能を求めて、移動手段などを作っていくと、泊から人が流出していってしまう。出来れば泊で生活できるスタイルを作っていきたいと思う。

(区長)羽合に住めば楽だとは思いますが、全員がそう出来るわけではない。高齢化率も高いし。人口を増やしたいということもちょっと抵抗感があって、小さい子どももとても少なくなっている。人口を増やすといっても、移住をどんどん増やすなどないと難しい。

(会長)若い人がどこに住むのか、となった時に住む場所がない。空き家を活用するのは現実的ではないので、浜山団地のように分譲地を設けることがいいのではないかという話もあった。住むところがない、というのが原因だと考えている。

(区長)国道もあり、インターもあるので中部の起点になるのではないかと考えている。自分の地区もここ数年で空き家が3件売れ、150軒代だったが、160軒になった。

(会長)ここで協議しなくてはいけないのは、どういう機能を持ったものをどこに作るか、というところで、そこに着地点を持っていく必要がある。また、その運営方法についても考える必要がある。

(ワザバー)高齢者が住みやすい環境を考えることの方が急務だと思う。高齢者にも色々なパターンがあり若い世代と一緒に住んでいけば、そこまで買い物に困っていないかもしれないし、高齢者だけの場合は、近くで買い物が出来ればいいな、と考えると思う。コミュニケーションができる場所があればよいと思う人もいると思う。先ほど話があったが惣菜を置くのは難しいと思う。その場合は割り切って羽合への移動手段を考える方が現実的だと思う。社協がある場所が拠点施設の一つのポイントになると思う。そこに行けば簡単な会合も開けるし、家からの移動手段はみんなで移動するなどして、そこに人が集まれば移動手段を設けて羽合に惣菜を買いに行くなど。答えは一つだけではなくて、複数の解決策があるし、整理していけばいいと思う。

(会長)現在の高齢者の方のニーズや困りごとをもう少し把握しなければいけないということが出てくるかもしれない。

(ワザバー)松崎でも簡単な買い物(日用品や保存のきくもの)をできるようなコミュニティの場を設けているので、条件は違うが参考にされてはどうか。

(委員)そもそも湯梨浜町の総合戦略などがあり、泊地域に小さな拠点を作ろうというのが大本とだと思う。基本はどんな拠点をどう作るか、ということで話が始まった。

(会長)何があれば便利かという点で項目を出してきた。つくるのであれば色んな機能があるに越したことはないと思う。波多交流センターのように最低限買い物が出来、コミュニティの場があれば望ましいと思う。あとは、公民館機能か。

(区長)役場を使うとした場合、買い物の拠点、交流の場を設けることは可能なのか。

(事務局)スペース的にはあまりない。松崎のよどやの場合には、4m程度を陳列に利用してい

- る。最終的には、どのような内容・規模を備え、複合的に作ることを考えるのが望ましい。
- (事務局)前提は既存の施設を使用することが望ましいが、耐用年限を過ぎつつあるので、新しく作る場合には集約立体型が望ましい。どこに建てれば都合がよいかを意見を出していただき、場所を決めて、あとはどういう機能があればよいかを検討していく。
- (会長)役場機能があった方がよい。あとは買い物、コミュニティ、公民館機能があるもの考えるということでもいいか。今あるものを使うということは考えなくていいのではないか。
- (委員)解体、改築はかなりの予算がかかるので、萎縮してしまうが、新築でよいのであれば、つわぶき荘周辺、役場周辺、原バス停付近というのは妥当な場所と思える。
- (区長)ハザードマップで見たとき、高さでいうと公民館辺りが望ましいのではないか。もし公民館の場所に建てるとして、公民館を解体して、新築するとその期間は文化的な活動や会議が行えなくなってしまう。漁村センターなどは、耐震やハザードマップの点からみても無理だと思う。役場も今の場所でもなくてもよいと思う。公民館辺りがよいと思う。ただ、歩いてくるのがしんどい。漁村センターや役場を改築するのは難しいと思う。公民館を改築するのが良いと思う。あとは移動手段を考えればよい。利便性でいえば漁協の辺りがいいが。
- (会長)ハザードマップで言えば、高台の方がいざ集まるときにはいいのではないか。
- (区長)役場機能は小さな拠点と別で考えていいのか。
- (会長)考えていいが、やはり一緒にしたほうが便利ではないかと思う。
- (区長)役場や公民館の人員を考える必要があるが、公民館をなくしてしまうと泊地域になにもなくなってしまう。
- (区長)便利がいいところがいいのか、防災を考えた方がいいのか。
- (委員)狭い道を通るのがあまり好きではないので、インター付近の広いスペースが良いと思う。
- (委員)役場機能も一緒に良いと思う。お店で惣菜なども取り扱える知恵を出し合えばいいなどと思う。
- (委員)今の役場の場所でも公民館の位置でもいいと思う。
- (委員)今の役場は駐車場が少ないので、困る部分もある。機能集約という面、防災面でいえば公民館の場所がいいかな、と思う。
- (委員)あくまでも個人的な発言として聞いていただきたい。町村合併の時も公民館が役場機能をもてばいいなど思っていたし、漁港の辺りに集合住宅を設けてその1階に店舗も設けることが望ましいと考えている。
- (会長)ここに来て、すべきことが煮詰まってきた。必要なもの、足りないものをどう絞ってどこに作るのか、という方向に整理していきたいと思う。また、皆さんに宿題を出していく。今日、いろいろぼやけていたことが見えてきたと思う。
- (区長)H29年度どこまで話をしていくのか。
- (会長)H29年度のうちに話をまとめる必要がある。住民への説明も前半にしたいと考えていた。
- (ワザバ)少人数で集まって、意見をまとめていきながら、方向を進めていくことよいと思う。
- (会長)役場と一緒にある程度まとめて、あと1, 2回くらいで具体的なものを提案していきたいと思う。
- (事務局)何かをするとなると補助金を探してこなくてはいけない。一緒に検討しながら、早めに計画を立てていきたい。

次回：5月18日(木)18:30～ 中央公民館泊分館